

本年もあっという間の1年と感じます。特に今年3月11日の東日本大震災、それによる原発事故、台風12号による紀伊半島の豪雨災害など未曾有の大災害が続き、その感を強くいたします。今も苦しみの続く被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げます。また厳しい現地、東北へ医療支援に飛んで行かれた本会の先生方をはじめ医療関係者の皆様におかれましては誠にご苦労様でした。

冒頭での「報告」では、まず九州医師会連合会の「医療保険対策協議会」(平安明先生)、「介護保険対策協議会」(小渡敬先生)、「医療安全対策協議会」(玉城信光先生)が報告されています。医療保険については診療報酬と介護報酬の改定がなされつつあるようですが、医師会の要望が強く反映される事が切望されます。医療安全に対する本県医師会の取り組みは他県からも評価されているようで、今後も継続推進が望まれます。「脳卒中市民公開講座」(安里哲好先生)の様子が報告されていますが、解りやすい講演で北部の市民に好評だったようです。脳卒中の連携パスが来年4月から北部保健医療圏でも使用されるようで、全県における脳卒中診療の益々の充実が期待されます。「第1回地区医師会長会議」(真栄田篤彦先生)。地域医療再生計画では宮古・八重山での病診連携、生活習慣病を中心とした県全体における連携、シミュレーションを用いた医学・医療教育が大いに期待される所です。

「平成23年度女性医師の勤務環境整備に関する病院長等との懇談会」を涌波淳子先生が報告されています。多くの病院で女性医師が働きやすいような環境整備が進んできているようで大変喜ばしいと思います。県は医師確保対策関連事業として①女性医師等就労支援事業の他、②専門医等人材育成、③救急勤務医支援、④新生児医療担当医確保、⑤産科医等確保、⑥産科医等育成等の事業を実施しており、これらも十二分に活用し“医師不足”を早く解消したいものです。

分科会、研究会等からの報告として仲原靖夫先生が「沖縄漢方医学研究会」、新垣実先生が

「沖縄形成外科研究会」について、それぞれ活発な活動内容が述べられています。漢方については時々症例報告等で解りやすく教えて頂けましたら大変有り難いと思います。

今月の「生涯教育」は、健山正男先生の「HIV早期診断のポイント～沖縄県の現況を踏まえて～」です。本県は本邦平均の2倍近いHIV浸淫地域であり、特に近年急増しているとの事。その診断契機は多くがAIDS発症時期であり、急性HIV感染症期は見逃されているようである。本論文ではHIV感染を疑う症状のポイントをはじめ、臨床像、診断法等が解りやすく詳述されており、早期診断・早期治療へ向け、明日からの診療に大いに役立つものと思います。

「プライマリ・ケアコーナー」は、椎木創一先生に「外来での下痢のアプローチ」を頂いております。診断・治療について明快に述べられていますが、特に経口摂取の成分作成法や患者への説明法も日常診療に有り難く思いました。

「インタビューコーナー」は沖縄県医師会事務局の上原貞善氏です。いつも大変お世話になっている事務局の多忙さも改めて伺い知事ができました。今後とも宜しく申し上げます。

伊志嶺隆先生には「若手コーナー」で「治療をしない医師 産業医」を頂きました。通常の診療と違う領域ですが、読むうちに惹かれていくような感がありました。

「随筆」は青木陽一先生の「沖縄、5年」です。新潟と沖縄、どこかで古いにしえから繋がっていたのか、興味深く拝読しました。

最後になりましたが、喜屋武朝章先生の追悼文を古波倉正照先生がお書きになっておられます。喜屋武朝章先生の御立派なご業績を改めて認識いたしました。

喜屋武朝章先生の御冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

今年は大きな災害に見舞われました。被災地はいうまでもなく、その被害・影響は全国津々浦々までおよびました。来年は平安な年であるよう願わずにはおられません。

広報委員 久場 睦夫